

「当たり前のこと」

先月の「園長だより」の中で、ちょっと触れた話題ですが、「早寝早起き」って良いですね。規則正しく、毎日、早寝早起きが出来たら、多分、身体にも心にも良いこと尽くめなのだと思います。でも、現実には、「早起き」を強制されて、否応なく求められる一方で、「早寝」に関しては、これは色々な理由で、いつも難しい。夜遅くまでしないといけないことがある、という外部的な理由があったり、たとえば、そういう外からの圧力がなくても、「夜しか自分の時間がないから」という自己都合で「夜更かし」をしまったりするものです。「早寝早起き」は、誰もが知っている、当たりの理想的な生活習慣なのだけれど、でも、それを、当たり前のように実現するのは、なかなか簡単ではないなあ、と少なくとも私はそう感じています。明日、休みとかじゃないんだけど、この映画を見終わるまでは、この作業をし終えるまでは、寝たくない。何としてでも一人の時間が欲しいあまり、明日の爽やかな目覚めを犠牲にしてしまう、なんてことも、あるんじゃないか、と思います。子どもには「早寝早起き」を教えるんですけどね、大人には、色々複雑な事情があるものです。

疑いの余地が全くないくらいに、「当たり前」のことでも、いざ、それを実践しようと思うと、なかなか困難が伴うこと、って私たちの日常の中に、結構、沢山あると思います。当たり前に「早寝早起き」は良いんだけど、これは難しい。当たり前に「人への親切」は良いんだけど、遠慮とか、お節介とか、過剰な期待とか、お返しとか考えると、これも難しい。当たり前に「勤勉で熱心」は良いんだけど、なかなか常に、学ぶことを志し、熱心さに火を灯すことは、これも難しい。当たり前に「平和」は良いんだけど、私たちの世界は、その実現に有史以来、ずっと手こずっています。一部の特殊な利権者以外は、「平和」であることを求め続けてきたと思うのですが、その願いは、

未だかつて実現したことはありません。

でも、そもそも、「平和」というのは、どのような状態を表す言葉なのでしょう。そこから、まず、ちょっと考えて参りたいと思います。「平和を実現する人は、幸いである」という御言葉を味わう上では、最初に「平和」の意味を考えてみることは、とても重要なことです。じゃないと、誰どう幸いなのか、よく分からないままになってしまいます。ある言葉の意味を知るに、それと反対の言葉をまず探してみると言うのは、よくある順当な手続きです。「平和」と反対の言葉って、何でしょうか。すぐに思い浮かぶのは「戦争」かなと思います。平和の反対は戦争。ゆえに、戦争のない世界が平和な世界、という理解があるかと思います。私たちも「戦争のない、平和な世界にしてください」と祈ることがあります。それは、ある意味、正しい考え方です。

しかし、平和学者のヨハン・ガルトゥングという人は、「そういう理解では不十分だ」と言いました。「戦争のない世界」＝「平和な世界」とするのは、非常に消極的であると。消極的と言うのは、控えめで視野が狭く後ろ向きだということです。「戦争のない正解」＝「平和な世界」とするのは、控えめなんですね。本当はもっと、素晴らしい「真に平和な世界」があるはずだと、彼は言います。それは、どんな世界かと言いますと、「戦争や争いの火種となりそうな、あらゆる差別・偏見・抑圧・格差が改善された世界」なのだと言います。「戦争や争いの火種となりそうな、あらゆる問題が解決された世界」こそ、本当の「平和な世界」なのだと。そんな平和なことを、彼は「積極的平和」と言いました。「戦争がないだけの平和」のことを「消極的平和」と言い、これと明らかに区別したんですね。

私たちが、求めるべき「平和」は、「争いの火種さえない平和」である「積極的平和」の方だと言えます。そして、イエス様が求められた「平和」も、「戦争がないだけの世界」ではなかったでしょう。というか、むしろ、私たちにとって関わることのできる平和と言うのは、戦争云々の規模で

はないと思います。私たちには、ロシアとウクライナの戦争を止めることはできません。アフリカのソマリアで引き続く無政府状態を正すことはできません。北朝鮮のミサイル発射を制限することもできません。そもそも、私たち個々人が実現しうる「平和」は、「戦争がないだけの世界」ではないわけですね。それは、私たちは大き過ぎること、手に負えないことです。

だから、私たちは役割分担をしましょう。「戦争がないだけの世界」は、神様にお任せしたいと思います。戦争の撲滅は、一個人である私たちには難しいから、神様に祈って、その実現を願い求めましょう。そして、私たちは、「差別・偏見・抑圧・格差」のない「積極的平和」を、自分の役割として、実践していきたいと思います。それくらいなら、力ない私たちでも実践できるような気がします。ロシアとウクライナの戦争は止められないけど、私たちの身近にある、不条理な差別や偏見や、正義の見えない抑圧や格差については、祈ることの以外にでもできることがあるはずですよ。簡単じゃないけど、戦争を止めるよりかは、可能性があります。

具体的には、「想像力」を逞しくして参りたいと思います。と言っても、この場合の想像力と言うのは、面白いアイデアとか、奇抜な発想ということではなくて「相手の気持ちを推し量る」という意味での「想像力」です。ローマの信徒への手紙において使徒パウロが教えたように、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」という共感性を伴った想像力を実践して行きましょう。私としてはこの「想像力」は、世界を平和にする可能性を持っていると信じています。人が人を傷付ける場所では、圧倒的に「想像力」が欠けています。「この言葉を言えば、相手はどう思うだろうか」「この拳を振り下ろせば、相手は痛いだろうか」「この刃物を突き立ててれば、相手は血を流すだろうか」「この銃弾を撃ち込めば、相手の命はどうなるだろうか」と、そんな風に、自らの行いの結果を想像し、相手の感覚と状態を想像するだけで、痛々しい出来事は、だいぶ減ると思います。戦争も、悲惨な事件も、すべては、人として持ち得る想像力を、意図的に発揮しない状況から引き

起こされるのだと言えます。目の前にいる人の肉体や心のみならず、その歩んできた生涯と、大切にしている事柄と、愛している存在と、それら一つ一つに思い巡らせるなら、まあ、普通酷いことはできないでしょう、きっと。想像力には、それだけの行動抑止力があります。だから、私たちは、想像力を忘れずに生きていきたいと思います。想像力のスイッチを OFF にすることなく、常に感受性のチャンネルを開いて、人の痛みを知り、人の喜びを祝福できるようにしたいと思います。そして、常に目の前にいる人のこと慮る隣人愛の続く先に、争いの火種さえ消えた積極的な平和が実現できることを信じていきたいと思います。その小さな隣人愛の実践が、いずれ世界規模の平和に繋がることを忘れずに、戦争のない平和な世界を祈りつつ、私たちは想像力を持ち続けるのです。

「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」。山上の説教と呼ばれる一連の御言葉の中で、イエス様は、私たちが平和のために努力し、祈り、想像し続けることを励まし、祝福してください。「神様の子ども」という、私たち信仰者にとっては、この上ない喜びの称号を用意してくださっています。しかし、何より嬉しいのは、「平和を実現する人々は、幸いである」という、至極当たり前なことを、宣言してくださっていることです。「そうですね、当たり前ですよ、イエス様。やっぱり、そうじゃなきゃおかしいですよ」と。「世界の平和のために、社会の平和のために、家の平和のために、教会の平和のために、職場の平和のために」・・・「心砕いて配慮し、その実現のために尽くす私たちって、幸せになれるんですね」と。道徳的価値観や、キリスト教信仰や、生存本能的理由や、まあ、一言に「平和のために」と言っても、その行動原理の出どころは様々かも知れません。でも、「私という個人を超えて、周りの人のために、大切な人のために、時に犠牲的に、時に献身的に、平和のために努力すること」の尊さを、イエス様は認めてくださり、祝福してくださるのです。

遠い国の戦争を心配したり、世界規模の不条理を憂えたりする時、私たちは「キリストの平和」

のために何も出来ていないという、無力さを憶えるかも知れません。でも、その無力さの自覚が、私たちキリスト者の行動の反省となり「戦争はなくせないけど、でも、身近なところの平和なら実現できるかも知れない」という気付きへと繋がっていきます。戦争撲滅については神様に祈ることしかできませんが、隣人との平和は、私たちの言動で実現することが可能です。それくらいの力は、神の似姿である私たちには備わっているでしょう。だから、諦めずに世界平和を祈りつつ、私たちは諦めず、隣人のために、手の届くところの平和のために、為すべきことを続けていくのです。平和聖日の今日、私たちには神様に委ねるべき平和と、私たちでも実現できる平和の両方があることを知って、「当たり前」だと思える善い行いを、コツコツ、気長に、浅き心を持たずに、続けていく信仰を再確認したいと思います。そして、平和の祈りと平和の行いは、必ず実を結ぶと信じて、今日から始まる 1 週間も、積極的平和を実現できる当事者としての自覚をもって歩んで参りたいと願うものであります。お祈りを致します。

神さま。今日は、日本基督教団において、とくに平和の尊さを思う聖日となっています。メディアの力を借りて、身の丈に合わない程に大きくなった、私たちの耳と目には、途切れることなく、世界中の戦争や平和ではない情報が届きます。不条理で悲しい現実を知るほどに、私たちは自らの無力さと、そして、不信仰にもあなたの無力さをも心に思うことがあります。どうか、神様、あなた自身も決して平和において無力ではなく、そして、私たちも平和において無力ではないことを教えてください。あなたへの平和の祈りが必ず実を結ぶこと、私たちの小さな隣人愛と想像力が平和の礎となることを、気付かせてください。全能なるあなたの御力と御業とを信じて、私たちは今日再び、あなたが必ず戦争を終わらせ世界に平和をもたらすことと、私たちが戦争の火種となるあらゆる不公平や不条理を克服できることを、祈り求めます。どうか、あなたと私たちが力を合わせ、あらゆる場所での、あらゆる不幸を終わらせ、本当の意味での平和を勝ち取ることができるよう

に。励まし、支え、導いてください。

このお祈りを、平和の主であるイエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。

8月誕生者の祝福祈禱

詩編 138 編 7～8 節

地上の王は皆、あなたに感謝をささげます。あなたの口から出る仰せを彼らは聞きました。主の道について彼らは歌うでしょう／主の大いなる栄光を。主は高くいましても／低くされている者を見ておられます。遠くにいましても／傲慢な者を知っておられます。わたしが苦難の中を歩いているときにも／敵の怒りに遭っているときにも／わたしに命を得させてください。御手を遣わし、右の御手でお救いください。主はわたしのために／すべてを成し遂げてくださいます。主よ、あなたの慈しみが／とこしえにありますように。御手の業をどうか放さないでください。

神様。今年は特に暑い夏の日差しを感じつつ私たちは、あなたに与えられた季節の中を過ごしています。空の雲も、山の緑も、夏の熱気に励まされ、力強くその存在を示しています。そんな8月の日々、あなたは敬愛すべき兄弟姉妹に命を与え、今日に至るまで支え導いてくださいました。8月生まれの方々のことを憶えて祝福と感謝の祈りを捧げます。夏の日差しを浴びて、いよいよ枝葉を広げる木々のように、この季節に命与えられた方々の人生を、あなたが力付けてください。また、人は一人で生きるのではなく、他者との助け合いの中で生まれ、今を生かされています。どうか、この8月生まれの方々を支える、ご親族、ご友人の上にも、あなたによる祝福がありますように祈ります。これらの祈りを、感謝をもって我らの主イエス・キリストの御名によって、あなたの御前にお捧げ致します。